

綾瀬市立天台小学校

研究テーマ：「学びを楽しむ子をめざして」－児童が資質・能力を身につけるための単元づくり・課題づくりを通して－

1、実践の目的

単元とは問題解決のプロセスであり、課題づくりが単元づくりのポイントになると考える。また、目の前にある課題に対して、自分で一生懸命考えたり、友だちに相談したり、自分の考えを伝え合ったりする中で、新しい発見をしたり、課題を解決したりして、「分かった」「できた」という感覚を味わうことができれば、学びを楽しむ子が増えると考えている。

本校の児童は学習に前向きに取り組もうとする児童は多いが、学力差が大きい。学力状況調査の結果からは「書く力」に課題があると分析している。

そこで、児童が学びを楽しむような単元と課題を設定することが、育てたい児童の資質・能力を身につけていくことにつながると考え研究テーマを設定している。さらに振り返りの時間をしっかりと設定し、自分の学んだことを書いて表現させる機会を確保することで、次の学びへつなげていけたらと考えている。

2、実践の内容

(1) 校内研究の体制

本校は全学級で授業公開をしている。今年度は職員全員を低・中・高のブロックに分け、月1回程度部会の時間を設けた。そこで、児童の実態や課題を共有した上で、どのような取組を行うべきかを話し合ったり、研究授業に向けた話し合いをしたりして児童に身につけさせたい資質・能力について

一緒に考えていった。その中で日々の振り返りの仕方についても相談し合った。

(2) 講師の先生をお招きした研修会

講師の先生をお招きし、本校児童の課題としてあがっていた「書く力をつけていくために」という視点を加えて、単元・課題づくりについて講義していただいた。詩を作る授業の実践例を示していただいたり、低中高それぞれの学齢に見合った本の紹介をしていただいたりした。また、振り返りの仕方についてもご指導いただいた。

(3) 校内研修会

本校には高等学校に勤務した経験を持つ国語教諭があり、校内研究のテーマについて「書く力」の視点から講義していただく研修会を設けた。中学校までに身につけてきた力を生かした授業の様子や生徒の様子のお話を聞くことができ、小中連携して、9年間を見通して子どもたちに身につけさせたい力を考えていかなければならないことを実感させられる研修会となった。

(4) 研究授業、研究協議の様子

講師の先生をお招きしての研究授業は低中高で1回ずつ行った。事前に、授業検討会を設定しており、そこで単元構成をみんなで考えたり、本時の課題はどのような課題がよいか、支援の手立てはどのような方法がよいかを考えたりするなど、グループで協議し、共有する時間を設けた。研究授業は、

児童にどのような資質・能力を身につけさせたいかを把握した上で参観し、研究協議の際は、それぞれが考えた成果と課題を伝え合う活発な話し合いを実施することができ、次の学びへとつながった。



友だちと考え
を伝え合う

絵本を友だち
に紹介する



司書と連携し
て学年の本棚
も充実



3、実践の成果

○今年度は「書く力」と「振り返り」というキーワードを意識しながら校内研究に取り組むことができた。学習指導案にも「振り返り活動を通して」という項目を追加し、単元の中にしっかりと振り返る場所を位置づけることができた。振り返りをどのように書かせ、どのように次の学習へ生かしていくのかを考えることで、教師の振り返りに対する意識を高めることができた。

○児童が見通しをもって授業に臨めたり、児童自身が何を学んでいるのかが明確にな

ったりするように、単元ごとの学習プランの作成に努める学年やクラスが複数あった。児童にとっても、見通しをもたせることで、自分たちが何を学ぶのかが分かり、意欲の向上につながったり、何を学んできたかが振り返りやすくなったりするという良い効果があった。

○振り返りの書き方や内容については、見本となる児童のノートをコピーして掲示するクラスもあった。他の児童がよい手本を見られる環境を整えることで、児童自身で目標を設定することができ、お互いの意欲向上につながった。

○低学年では、日記を毎日宿題に出し、書く力を高めようと努めた。

○講師の先生に紹介していただいた詩の指導を生かし、季節のことばを使った詩作りに挑戦した学年があった。掲示板に掲示し、他学年の児童の目に触れさせることができた。

4、今後の展開

考えを伝え合うためには、まずは自分の考えをもつこと、そして自分の考えを書くことができてほしいが、自分の考えを文に書く力はまだまだ乏しい。語彙力を増やしていくためにも日々の読書活動の推進や授業の工夫に継続して取り組んでいきたい。また、書く力をのばすために、低中高で目安となる段階を設定し、教員間で共有できるようにしていきたい。同様に伝え合う力についても、まずは低学年で伝えることから始め、次第に伝え合うこともできるような力をつけていき、学びを楽しむ子を育てていきたい。